

2. 東北（地域別調査機関：（財）東北開発研究センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
家計 動向 関連	良くなる	その他専門店〔食品〕（経営者）	・さくらんぼシーズンを迎え、県外観光客の来店が期待できる。また、中元シーズンもやってくるので法人需要の復活にも期待感が持てる。	
		一般レストラン（経営者）	・ボーナスシーズンを足がかりに、サッカーワールドカップ等のイベント効果の余韻が持続する。	
	やや良くなる	商店街（代表者）	・ボーナス情報もマイナス要因は全くなく、消費マインドにはプラスに働く。原油高から一部商品の値上げもあるが、短期的スタンスではむしろ各店の売上が上がる方向に働く。秋口までは明るい局面が展開する。	
		商店街（代表者）	・毎年、中元の出足が早まっている傾向にあり、6月は期待できる。	
		百貨店（経営者）	・今月の食品の不振も今後競合店の影響が少なくなる。夏の天候次第であるが、衣料品は今月の傾向が続き、全体では今月よりも良くなる。	
		百貨店（経営者）	・雇用情勢の改善が報道され、また所得の面でも夏のボーナス増など消費を刺激する風潮が醸成されていることから、決して消費を控えなければならないわけではない。生活者の購買行動が期待される。	
		コンビニ（経営者）	・毎年7月、8月がピークとなるが、5月現在で前年比105%程度を維持しており、このまま夏のピークに向けて客単価、来客数ともに上昇傾向が続く。	
		衣料品専門店（店長）	・今まで首都圏の店舗が好調でも当地域の店舗は不調であったが、ここにきて、やっと当地域にも好調さが波及してきており、景気が少し良くなっていることが客の会話から聞かれることも多くなってきた。	
		衣料品専門店（店長）	・今後はたんす在庫にない商品を選ぶ傾向が強くなる。高すぎず、安すぎずの中間の価格帯で、価値と価格を照らし合わせて商品を購入する傾向が強くなる。	
		衣料品専門店（店長）	・やっと暖かくなってきたので、春夏物が必要な客も少し増えてくる。	
		家電量販店（従業員）	・地上デジタル放送、サッカーワールドカップ関連の動きが良くなるとともに、気温の上昇により、季節商品が伸び、相乗効果で売上が伸びる。	
		乗用車販売店（経営者）	・来客数は現在も堅調である。4、5月に買い控えたユーザーも、夏場の需要期には購入を決断する。低年式車保有ユーザー向けのイベント、施策が効いてくると期待している。	
		自動車備品販売店（経営者）	・いくぶんではあるが、購買欲、修理にかける金額が改善している。この調子でいくと関連消費も増えていく。	
		その他専門店〔化粧品〕（経営者）	・まだまだ安定していないし、客単価の落ち込みが続いているが、まちづくり三法の見直しについては、中心商店街にとって追い風であり、これをてこにし、品ぞろえの見直し等を実施することで少しずつ客の需要が増える。	
		その他専門店〔白衣・ユニフォーム〕（営業担当）	・天候にも左右されるが、今年もクールビズにより男性用のシャツが例年よりも動く。	
		都市型ホテル（スタッフ）	・駅前への新たな2つのホテルの進出に伴い外食産業も進出しており、立ち寄る客も多くなり、駅前エリアにおける景気は良くなる。	
		住宅販売会社（従業員）	・選挙後の金利や優遇税制の動きが気になり、年内入居希望者が増えている。	
		変わらない	商店街（代表者）	・イベントの開催により、一時的に商店街がにぎわい、売上増加にもつながっているが、イベント後の反動による減少もあり、まだまだ消費回復を実感できていない。
			一般小売店〔茶〕（経営者）	・4月に合併があってから、新車が多く走っている。保険会社や自動車会社の話でも好調のようで、100万円前後で買える車に人気がある。しかし、使うところに使い、引き締める所は引き締めるという意識が強い。
			一般小売店〔雑貨〕（企画担当）	・個人消費に関して、日用品については、前年を大きく下回るとか上回るとかの動きはなく、天候、臨時収入に大きく左右される状況が当分続く。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（販促担当）	・石油関連の値上げにより、厳しい部分があるが、今年は6月のボーナス支給が例年より良いという話があり、プラスマイナスで変わらない。
		スーパー（経営者）	・競争環境が依然として厳しく、出店が相次いでいる。客単価が上がらず、買上個数も増えない状況がもうしばらく続く。
		スーパー（経営者）	・他の業態は別として、小売食品については、非常に一品単価の動きが安定している。生鮮の相場も安定しあまり乱高下していない。天候は、長期予報でもほぼ平年並みで猛暑にならないということで、食品については大きな期待はできない。原油価格の上昇が今後諸物価にどのような影響を及ぼすかがかぎとなっている。
		スーパー（店長）	・天候に影響されることは若干あるが、来客数、売上に大きな変化はなく推移する。
		スーパー（店長）	・競合店間の価格競争は、2、3か月前から更に激化傾向にある。来客数、売上の取り合いは続き、来客数が伸びても、単価ダウンで売上は横ばいで推移する。
		スーパー（総務担当）	・生鮮食品は、日照不足で農産物特に野菜の価格は高くなるのではないかと懸念している。また、天候、海流の影響か、旬のカツオの高値が続き、また生いかたが小ぶりであり、おいしい値ごろでの提供ができないのも懸念される。また、暑い日と寒い日の温度差が大きいため、売れる商品をタイムリーに差し替えして対応し、しっかり客の需要にこたえることが大事なのだが、思うにまかせない状況が続いているので、今後も変わらない。
		コンビニ（エリア担当）	・7～8月は、気温が高く1年で一番売上が上がる時期であるが、前年と比較して売上を大きく上げるような、商品、企画が見当たらない。
		衣料品専門店（経営者）	・気に入った物は値段にかかわらず購入する傾向がある。しかし、数量が出るはずの値ごろ品の動きが悪い。安い物と高くても良い物とに二極化している。
		衣料品専門店（店長）	・夏の時期に売れるサマースーツ、半そでワイシャツなどは、天候に大きく左右されるので判断が難しい
		家電量販店（店長）	・サッカーワールドカップが控えているが、盛り上がりには欠けている。
		乗用車販売店（経営者）	・来客数の減少傾向や受注に結び付く商談の減少から、今後は良くても前年並みである。
		住関連専門店（経営者）	・4月の異動も終わり、人の動きもなく、耐久消費財の需要は伸びない。住宅着工も伸びておらず変わらない。
		その他専門店〔呉服〕（経営者）	・呉服や寝具の間屋の話では、景気が悪いということである。
		その他専門店〔酒〕（営業担当）	・中元シーズンに入り、天候次第で大きな変動はない。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・原油の高値安定が続くことが予想され、客の需要を抑える動きに歯止めがかからない。天候が例年並みに安定しなければ、需要の回復はない。官公庁の入札等が5月から出てくるが、大型の公共事業がないため前年並みの販売を確保できれば上出来な状況である。総じて販売量の減少は避けられない。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・価格の変動が大きく、客としては買い控えがあるが、このまま変わらない。ボーナスが出てこのままでは、需要は伸びない。
		観光型旅館（経営者）	・景気が上向きとの雰囲気があるが、宿泊数の流れからは実感として感じられない。逆に平日の動きは冷え込んできている。景気が本当に上向きになっているのか、客自身が疑心暗鬼で、宿泊レジャーに関しては、今は様子を見ているようである。昼食付き休憩などはやや増加している。
		都市型ホテル（経営者）	・ここ2、3か月は、堅調に推移しているが、予約スパンが短いので、現状では昨年と変わらない。
		都市型ホテル（スタッフ）	・一昨年、昨年、愛知万博がない分、集客に期待するが、ふたを開けるまで分からない。
		都市型ホテル（スタッフ）	・単価アップは難しく、同業者との競争激化により、共食いの状況である。個々の内容を充実させて販売することが難しい。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		旅行代理店(従業員)	・2、3か月後は、夏休みの海外旅行の問い合わせが来ているので期待したいが、申込までには至っていない。
		旅行代理店(従業員)	・国内も海外も前年同期比は、約100%であり変化はない。ただし、月ごとの増減はある。
		タクシー運転手	・ますます新規参入車両が増えて、客を乗せること自体が困難である。
		タクシー運転手	・プロ野球の試合がある時は良いが、それ以外の時はあまり変わらない。
		遊園地(経営者)	・昨年はお盆の天候が不順であり、低調な成績となったが、今年はイベントなどにより一定程度確保できる見込みである。
	やや悪くなる	商店街(代表者)	・県内は、ゼネコンを中心に企業関係の動きが非常に鈍く、来店しても金を使わない傾向にある。
		一般小売店[書籍](経営者)	・月単位の比較では、落ち込む。相変わらず雑誌は低迷しているが、映画化作品関連の書籍の好調な売行きにより前年比較では堅調に推移する。
		百貨店(売場主任)	・ガソリン、灯油価格の上昇と関連部門の各種料金の値上げなど経済不安の元となる諸事情が多く、消費マインドの低下は避けられない。
		スーパー(店長)	・今後も競合店の出店計画が相次いでおり既存店での前年割れが続く。また、競合店出店によりエリア内の価格競争も激化し一品単価ダウンで売上に影響することが懸念される。
		スーパー(店長)	・原油高の影響で身の回り品の値上がりは後を絶たない。銭湯、クリーニング店なども値上げしており、買い控えがますます進む。
		コンビニ(店長)	・来月から駐車禁止の規制強化があり、当店のように入庫できない所はプラスの影響はない。また、当県は大規模な企業やテーマパーク等の誘致を行わなければ、スーパーの新規出店による客の出入りだけでは景気は良くならない。
		衣料品専門店(経営者)	・3か月予報では梅雨は長い見込みで、天候的要因や夏のボーナスの支給状況からも当地域ではあまり期待できない。
		住関連専門店(経営者)	・デフレが解消に向かっているのが、仕入れ単価が2割程度上がっている。しかし、その分を販売価格に転嫁できないため、利益が少なくなり、経営が圧迫されている。
	悪くなる	高級レストラン(支配人)	・夏場の予約で、特に東北四大祭りに伴う宿泊、レストランの予約受注の出足が鈍く、エージェントも苦戦している。
		スーパー(経営者)	・原油情勢が安定しないため、更にガソリン等の値上げが予測され、たばこの増税による落ち込みが影響する。
通信会社(経営者)	・当地域では、400人規模のリストラがあり、失業者が多く、今後の売上に大きく影響する。		
企業動向関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	食料品製造業(経営者)	・米国からの牛肉の輸入解禁が予定されており、牛タンの原料の相場が低くなってくることが期待される。
		金融業(営業担当)	・分譲マンションの動きが活発で期待できる。
		広告代理店(従業員)	・大規模な観光関係イベントが2年後に控えており、これから関連の仕事が増えそうである。期待感はある。
	変わらない	電気機械器具製造業(経営者)	・この2、3か月は安定した受注が見込まれる。今後、円高、原材料の高騰がどのようになるかに、業績がかかっている。製品への価格転嫁が非常に厳しく、社内の改善で吸収することが限界に近くなっており、先々に不安が残る。
		電気機械器具製造業(企画担当)	・原油高、円高、株安の悪い雰囲気があるが、トータルでは底堅く、大きくは変わらない。
		建設業(経営者)	・金利の上昇傾向、石油の高騰による資材の値上がりが懸念される。当面は駆け込み需要がある。
		建設業(企画担当)	・工事の出件数に大きな変化はなく、設備投資も現状程度で推移するが、コスト競争は依然厳しい状況が続く。
		輸送業(従業員)	・原油の高騰で、各業者とも出荷調整が続いている。
		広告代理店(営業担当)	・4月の新年度スタートから広告費への締め付けが始まり、今後2、3か月は変わらない。
	やや悪くなる	食料品製造業(経理担当)	・夏場の不需要期であり、受注は前年比横ばいである。原材料資材や燃料の高騰で原価アップは避けられない。
		出版・印刷・同関連産業(経理担当)	・地方公共団体、民間企業にかかわらず、入札価格が下がってきており、収益的に厳しくなる。
		一般機械器具製造業(経理担当)	・自動車用部品、民生機器ともに今後も好調が続くが、急激な円高が輸出採算をかなり押し下げる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		通信業（営業担当）	・一般的にこのまま原油価格の高止まりが続くという見方をされていることもあり、取引先は更に経費削減を進めていく。
		新聞販売店〔広告〕（店主）	・漁船が出漁できない状況が続き、関連の仕事が多い地元で閑そく感が漂っている。大型の観光ホテルの整理も加わり、明るい話題が少なく、一般家庭でもにぎわいが少ない。
	悪くなる	農林水産業（従業者）	・りんご、桃、さくらんぼの開花時期が例年よりも約1週間遅れた。特に桃については、出荷がお盆前と後では販売価格の開きがかなりあるので、今後の成育への影響が心配である。
雇用 関連	良くなる		
	やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・民間からの事務系以外の案件相談や行政の派遣外注、入札が増加傾向である。
		人材派遣会社（社員）	・景気の回復に伴い求人数が確実に増えていることから、長短期問わず派遣依頼は減らない。また、紹介予定派遣の認知度も高まってきており今後も増える。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・郊外型の大型小売店のオープンが今年秋から来年初めまで数件あり、それに伴う雇用拡大が期待される。特に地域におけるパート雇用の拡大が期待される。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・地元流通業者で、秋口から雇用の拡大を検討している。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・新規需要や増員の話が急に少なくなってきている。派遣契約打切りの打診もある。複数の比較的安定した大きな取引先からのような動きなので、決して一時的なことではない。
		人材派遣会社（社員）	・新卒採用の各企業の動向をみても、求人意欲が非常に高い状況が続く。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・新卒者の就職状況は昨年に比べて若干改善されているが、中途採用は依然として厳しいままである。
		職業安定所（職員）	・新規求人が前年同月比で増加し、新規求職が減少傾向となっているため、求人倍率は改善傾向で推移するが、不安定雇用が多いことに変わりはなく、変動が大きくなる。
		職業安定所（職員）	・パート求人は減少しているものの、今後も求人数は製造業を中心に増加傾向は続く。増加の要因となっている非正規社員求人が多いことから、正規社員の大幅な増加は当面見込めない。原油価格の高騰による影響は特にならないものの、雇用のミスマッチが解消され、今後雇用環境が大きく改善されるかどうかは不透明である。
	やや悪くなる		
	悪くなる		